

幼児教育長期派遣通信 1学期号

発行 令和2年8月17日

三原市立大和小学校 柏原 真由美（派遣園：広島大学附属三原幼稚園）

幼児教育長期派遣研修では、幼児教育の実践を体験し、幼児教育や幼保小接続についての理解を深めています。1学期号では、環境構成や教師の援助の工夫によって、子供たちが遊びを通してどのように学んでいるのかについてお伝えしたいと思います。

1 1学期の研修内容

(1) 園内研修

3～5歳児の観察 保育部会（幼児期の見方・考え方の捉えについて）
幼児教育アドバイザー訪問による幼児理解の研修

(2) 園外研修

所属校1年生授業参観 幼児教育理解に係る研修会 長期派遣研修報告会
接続に係る研修会 広島大学附属三原小学校1年生授業参観



2 研修を通して

広島県では、5つの力を乳幼児期の子供たちに育みたいと考えています。5つの力とは、「感じる・気付く力」「うごく力」「考える力」「やりぬく力」「人とかかわる力」です。（「遊び 学び 育つひろしまっ子！」推進プラン より）5つの力は、一人一人の子供の発達の特성에応じて、**遊び**を通して育まれていきます。3つの事例を紹介します。

活動が生まれやすく、展開しやすいように、遊具や用具、素材の種類、数量及び配置を考えます。

子供一人一人を理解し、積極的に周囲の環境に関わっていけるよう、適切な声かけをします。

興味が持てる環境構成



感じる・気付く力

捕まえた虫をいつでも観察したり、世話したりすることができます。毎日様子を見ては、「餌食べてる。」「動いた。」と友達同士で気づきを伝え合っています。

アリの巣見つけた！



アリさん力持ち！

やりぬく力

レンガの下にアリの卵と巣を見つけました。アリが卵を巣に運ぶ様子を、興味を持って見ることで、自然の面白さ、不思議さを感じ取っています。

思いを受け止める教師の援助

アリさんすごいね！



教師も一緒に観察し、A児のつぶやきに耳を傾け、驚きや疑問に思う気持ちに共感的に寄り添っています。A児は、納得するまでじっくりと観察していました。

やってみたいと思える環境構成

山から水を流そう！

考えることを支える教師の援助



やったあ！つながった！



水が流れるにはどうしたらいいかな？

うごく力

やりぬく力

考える力

水遊びが充実するために、水鉄砲やといをたくさん用意しておきます。といでの葉っぱ流しの遊びから、山からの水流しの遊びへと、遊びが広がりました。

砂山にトイをつなげて上から水を流しています。トイが外れ、上手く下まで流れず、何度もつなぎ直しています。最後まで粘り強く取り組んだことで、上手く流れた時には、満足感・達成感が生まれました。

途中で水がトイを外れて流れなくなってしまいました。困っている子供たちに、どうしたらよいか考えるきっかけとなる声かけをしています。子供たちは、一生懸命考え、つなぎ方を試行錯誤しています。

遊びが充実する環境構成

ケーキ屋さん開店です！

子供同士をつなげる教師の援助



ソーダください！



みんないいアイデアはないかな？



人とかかわる力

考える力

コーナーには、すり鉢やおろし金などの道具がそろっており、色水遊びや泡遊びをすることができます。色が出る花で色水を作ったり、石鹸を泡立ててケーキを作ったりしています。

色水でジュースを作ったり、泡でケーキやプリンを作ったりして、お店屋さんが始まりました。やりとりを通して、子供同士関わり合いながら、互いの思いや考えを受け入れ、伝え合っています。

遊びの振り返りの時間に、B児の「ケーキ屋さんしたい！」という思いをクラスの子供たちに伝えました。子供たちは考えを出し合い、協力して看板やメニュー作りの準備を始めました。

安心して遊びに没頭できる環境構成

5つの力

一人一人の思いに寄り添った教師の援助

5つの力を育むためには、環境構成や教師の援助が大切です。

3 まとめ

研修を通して、子供たちは、自分の好きな遊びを選択して主体的に活動しており、教師は子供の興味・関心に合わせて環境を構成することで、豊かな学びを支えていることがわかりました。

今後は、幼児の遊びの中にある学びを、小学校の主体的な学びにどのようにつなげていくかについて考えていきます。

〈乳幼児教育支援センターより〉

乳幼児期の教育・保育は、乳幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行う教育が基本です。環境を通して行う教育は、乳幼児の主体性と教師の意図がバランスよく絡み合って成り立ちます。小学校教育でも、同じようなことが言えるのではないかと思います。児童の主体性を伸ばしていくヒントが乳幼児期の教育・保育にはたくさんあります。